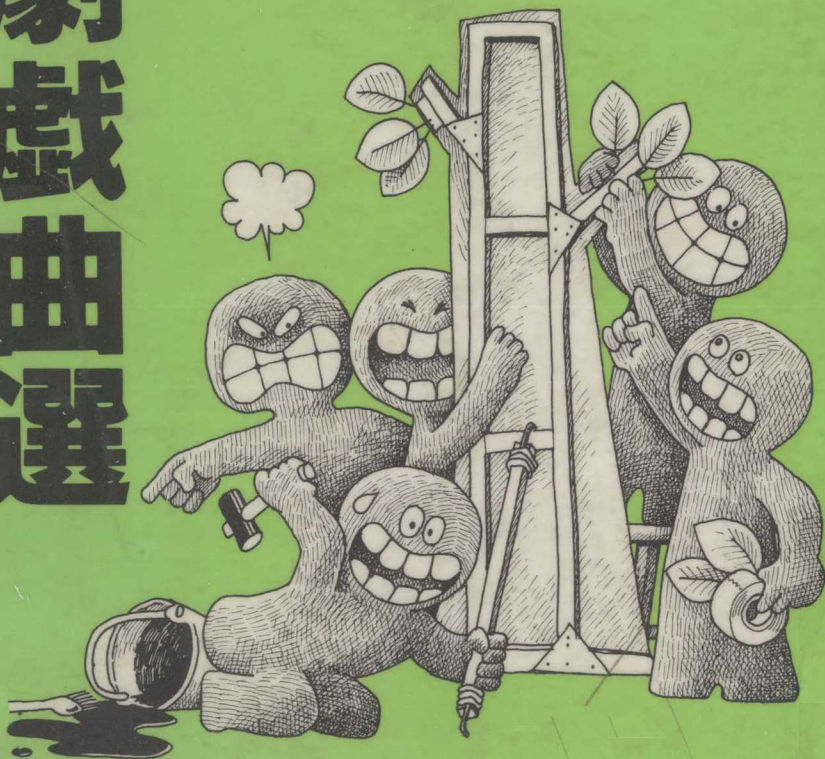


IV

- はい、さいなら ● 橋本栄子
- さすらい狂騒曲 ● 石山浩一郎
- ナナハン・ララバイ ● 西沢周市
- アベルの告白 ● 坊丸一平
- 都会の森の物語 ● 本山節弥
- じゃがらもがら ● 大谷駿雄

佐々俊之 ● 坊丸一平 ● 町井陽子 編

高校演劇戯曲選



高校演劇戯曲選 IV

晩成書房

佐々俊之・坊丸一平・町井陽子Ⅱ編

まえがき 2

はい、さいなら●橋本栄子 3

さすらい狂騒曲●石山浩一郎 38

ナナハン・ララバイ●西沢周市 79

アベルの告白●坊丸一平 115

都会の森の物語●本山節弥 162

じゃがらもがら●大谷駿雄 201

上演許可願について 245 作者住所 247



まえがき

『高校演劇戯曲選』第四集は、高校演劇の新し

橋本栄子「はい、さいなら」は、高校演劇の女

石山浩一郎「さすらい狂騒曲」は、前衛劇的な

西沢周市「ナナハン、ララバイ」は、着想と風

坊丸一平「アベルの告白」は、高校演劇には珍

本山節弥「都会の森の物語」は、高校生に共感の

大谷駿雄「じゃがらがら」は、伝説を現代にのみがえらせた劇中劇形式の成功作。

と、バラエティに富んだ異色の作品集です。ちなみに、「はい、さいなら」は、高校演劇

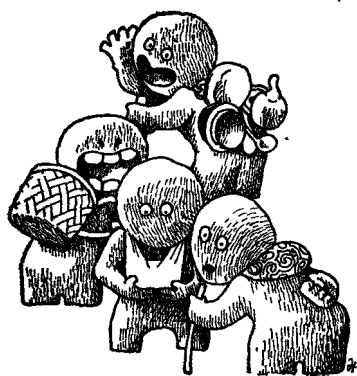
コンクールの第二十二回（五十一年度）全国大会で、「じゃがらがら」は第二十五回（五十四年度）全国大会で、それぞれ最優秀賞を授与されています。

した。
マ。

ハ作品。

はい、
さいなら
■橋本栄子

登場人物
トメ婆
ツゲ婆
キチ婆
ハル婆
若い女
役場の女



一場

閉山のため、あとかたもなく崩れ去った北海道のある炭鉱集落の跡、さしも巨大なズリ山も、すでに閉山されて幾星霜、草におおわれたその姿のみで、知られるばかり。しんとした午下りのことです。骨ばかりのあばらやが一軒。——ぼつんと

トメ姿が戸外で、こつばを運んだり割ったりの作業を黙々と繰り返し、ハルは、役場の人とあばらやの中で。

役場の女 ……ですから……ですからね……

犬の遠吠えが聞こえるばかり。

役場の女 おばあさん。おばあさん！ 返事ぐらいしたって損にはならないと思うんですけどね……さっきから言っているように……私達役場の者は、みんな、あなた方のことを心配しているんですからね。特に福祉係の私達にとっては……あなた方にまんいち………っていうこともあるでしょ………そうすれば、町長さんも、とっても困るんですよ………

わかってもらえと思ひますけど……今度の選挙ではね……町長さん再び立候補してね……公約……わかるかしら公約なんて……体にはるコヤクではないんですよ。閉山のあと……もう十年もこの炭鉱閉山してからたつでしよ。ですからね、この山に植林をするって会社もいうし……石炭がなくなった炭鉱なんて……こんなに荒れ果ててしまってきたないばかりでしょ……ですから会社では、山に木を植えてきれいにするって言っているんですよ……そうすればズリ山だって……きれいになるでしょ……それにね、熊だつて出なくなりますよ……ほれ、あの陸地区のあとに熊が出たんですよ。こんな大きな……ここにだつていつ出るかわかりませんよ。あつそう公約……公約ね……選挙の時の約束……町長さんの……全国一の福祉村建設ですよ。すばらしいでしょ……全国一の福祉村ですよ。私達若者は、そうです町の青年達はみんな賛成しているんですよ。いいアイデアでしょう。アイデア町長さんです、さすがあ。閉山してさびれた村が、立派な福祉の町に生きかえる。わがオタヌキ町のバラ色の未来ですよ。あなた方だつて立派な養老院で……

ハル婆 ナ・ム・ア・ミ・ダ・ブ・ツ。ナ・ム・ア・ミ・ダ・ブ・ツ。ナ・ム・ア・ミ・ダ・ブ・ツ

役場の女 いやですわねえ、おばあさん……わかるのかしら、福祉なんていうことが……あのね、福祉っていうのはね、困っている人達……例えば……そうそう、あなた方のように、生活能力のなくなった人達のために、働いている元気な者が……そう税金で……

…安楽に余生を過ごさせてあげようっていう施設なんですよ。わかりますか？ みんなの善意の結晶なんですよ。

外で作業をしているトメにも聞こえるように演説をぶつが、何の反応もない。

役場の女 困りましたね。

ハル婆 ああ（うなずく）

トメ婆 今日もいい天気だ。

ハル婆 ナ・ム・ア・ミ・ダ・ブ・ツ。ナ・ム・ア・ミ・ダ・ブ・ツ。

役場の女 そうですともあなた。この天気ではね。

ハル婆 ああ（再びうなずく）

役場の女 ……わかつているのかしら。この人達……

ハル婆 ……（きょとんとしている）

役場の女 腐ってしまいますよ。

ハル婆 あ？（側へ寄る）

役場の女 そう寄りなくてもいいんですよ。お婆さん。

ハル婆 ……（うなずきながらまた側へ）

役場の女 あのね……お臭い……この前来た時言ったでしょ、老人は清潔が第一だって

ね。

ハル婆 あ・あ・あ・あ……

役場の女 いやだなあ……これだから……（トメに）おばあさん、おばあさん！

トメ婆 イ・イ・オ・テ・ン・キ ヘヘヘ……

役場の女 いつ死んだんですかつ。あのお婆さんは？ タミさんて言っていましたね。

トメ婆 ……

役場の女 きうですか？ おとといですか？

トメ婆 ハ・ン・ツ・キ・マ・エ・ダ

役場の女 半月前！ ほっておいたんですか？ 今までっ！ 役場に知らせしないで……

……（ハル婆に）ほんとですかつ、うそでしょ。

ハル婆は、にこにこ笑っている。

役場の女 じゃさっきのにおいは……死人のにおいですかあ！ げえっ

ハル婆、木魚を打ち鳴らす。

ハル婆 ナ・ム・マ・イ・ダ・ナ・ム・マ・イ・ダ

役場の女 げえっ！ げえっ！

ハル婆 ナ・ム・マ・イ・ダ・ナ・ム・マ・イ・ダ

役場の女 もう知りませんよっ、他人をばかにして、こんな処のどこがいいんだか。私はね、あなた方の事を思っ言っているんですよ。なにしろ私にとっては至上命令なんですからね、死体の引き取りと、あんた達を養老院に入れることが……女の私が来れば、少しはわかってもらえるかと思つて、朝からこうして三回も足を運んでいるのに……少しはこっちの身にもなつて下さいよ。

木魚、一段と大きくなる。

役場の女 みなさん覚悟して下さいよっ。あしたの朝は大勢で来ますからねっ。あなた方がなんと言つてもだんぜん強制収容ですっ。(憤然と去る)

トメ、丁寧におじぎをする。

木魚、一段と大きくなる。

ハル婆 カエツタカ、ヤクバハ。

トメ婆 怒つていったぞ、あれ けつっ振つて行きよる。

ハル婆 ウヒッ ウヒッ ウヒッ ウヒッ……
トメ婆 ハッ ハッ ハッ ハッ……

ハル婆、腰は弓なりに曲っていても、その動作の速いこと。

トメ婆 タミ婆も怒ってるべ。

ハル婆 フム フム フム フム

トメ婆 ゆんべ死んだばかりだ。

ハル婆 フム フム フム フム

トメ婆 みろや、ここ。芽を出しよる。タミのまいたナツバだ……一足先きに行ってしまうたな タミは……

ハル婆 ……

トメ婆 あのことをみんなで揃ってするべと、思っていたのにな……気の早いやつだタミ婆は。さっさと行きよった。

ハル婆 フム フム フム フム

トメ婆 ここは、おら達が生まれて、育って、働いで来たところだ……だども……手伝えやおばあ、おら達も、急いだほうがいいかもしれんで。

ハル婆 ヤクバカ？

トメ婆 いつ来るかも知れん。

二人で作業を開始する。こっぱ薪を一心に集めているようす。遠くから風によつてキチ婆の今様風のいい声が。

キチ婆 君が代は、千代にやちよに、さざれ石の、岩ほとなりて、苔のむすまで、おもひ切れとは、身のままか、誰かは切らん恋のみち、思ひ切りたる、雨の夜に、夢かや君の、おとずれは

トメ婆 いい声だ。

ハル婆 フム フム フム

キチ婆とツゲ婆、若い女をつれて。

キチ婆 見ちゆくれ(背中 of 大きな包を開く)

トメ婆 ひゃー たまげたな。今日はたいした戦利品だ。

ハル婆 フム フム フム

キチ婆 かいべつに、きうりに、とまとに、なすび、なんでもあるえ。
トメ婆 今日は、どこの畑からだ。

ツゲ婆 いっぱいなとった畑からだ。あいつらは、少々もいたところで困りやせん。

トメ婆 わらしらに、追っかけられなかったか？ 石投げられたべ、犬けしかけられたべ。

ツゲ婆 わしら、足速いからな。

キチ婆 石投げてやるえ、まけやせん。

ツゲ婆 わしらの畑をめちやめちやにしたやつらだ。そのくせ、わしらをドロボーだ、畑

あらしだと言いよる。

トメ婆 ヒョーローゼメにしよる。

ツゲ婆 食い物なくなれば、わしらが養老院にゆくべと思っとる。

キチ婆 電燈もとめられたえ。

トメ婆 まけるもんか。あのことまでだ。

ツゲ婆 あのことまでよ。

キチ婆 あのことまでえ。

ハル婆 フム フム フム

ツゲ婆 さてと、タミ婆にたべさせるべ。

トメ婆 (ふと気づく) あの娘さんは？

キチ婆 はい忘れとったえ、あんた(若い女に)

若い女 ……

ツゲ婆 なんも言いやせん。

トメ婆　なんで連れて来た。足手まといになるで。

キチ婆　その川の、崖のところに立っておったえ。

トメ婆　（小さな声で）身投げか？

ツゲ婆　（小さな声で）シンメイキュウジヨ　かも知れんな。

キチ婆　（小さな声で）そうえ。

トメ婆　なんだそれ、時々おまえわからねえこと言うな。

ハル婆　シーッ

キチ婆　シンジョーソツだ、ツゲ婆は学があるえ。

ツゲ婆　（小さな声で）ひと助けってこった。

トメ婆　（小さな声で）ふーん。なしてよ。

ツゲ婆　（小さな声で）濡れてるべ、べっしゃりだ。

トメ婆　（小さな声で）そう言ったってわしら……

ツゲ婆　（小さな声で）いいべ娘だ。

トメ婆　反対だ。

ハル婆　あ？

トメ婆　反対だって言っただんだ。

ハル婆　フム　フム

ツゲ婆　（小さな声で）今晚だけだ。

トメ婆 町さ行けば、宿やもある。

ツゲ婆 町まで、五里もある。歩けないべ。

トメ婆 困ったな。

キチ婆 困ったえ。

ツゲ婆 困ったな。

ハル婆 フム フム フム

ツゲ婆 (ハルに) ハル婆、いい考えないか。

ハル婆 フム フム フム

トメ婆 またフムフムか。おばあはいつも天下太平だな、困ればフムフムだ。

間。

トメ婆 やっぱし……反対だ。第一食わせるものがないべ。

キチ婆 それなら、わし、また畑からもうでくるえ。畑にや他人様の植えてくれたもの、なんでもござる。

トメ婆 そう言っただって困るべ、あのこともあるし。

ツゲ婆 やっぱしな、相談すつか。ミンシユテキにやるべ。

四婆、頭を寄せてヒソヒソ。

ツゲ婆 きまった。

トメ婆 断るべ。

キチ婆 しょうがないえ。

トメ婆 あのかことは延ばすわけにはゆかん（決然と）

ツゲ婆 お婆わかったか。

ハル婆 フム フム

トメ婆 やっぱし、断るのは年かさのものがええな、おばあ。

ハル婆さんスタスタと若い女のところへ、顔をみつめる。手を取る。

トメ婆 おばあ！

キチ婆 聞こえんと。

ハル婆 メンコイ。

キチ婆 はじめから、わかっているえ、美人だ。

トメ婆 あのこと、どうすんだ。おばあ！

ハル婆 フム

ツゲ婆　また聞こえなくなつた。しかたがない、あのことは延ばしてもいいべ。
トメ婆　（再び決然と）うんにゃ、あのことは決まっとる。役場も、あした来る。
キチ婆　おばあは、いい出したら聞かんえ。

四人四様で、間。

ツゲ婆　しかたがないな。

キチ婆　しかたがないえ。

ハル婆　（手をたたく）

キチ婆　聞こえたえ。

ツゲ婆　聞こえたわ。

トメ婆　（黙して薪運び）

ツゲ婆　おらも手伝うべ。

トメ婆　いらんしゃこすんな。

ツゲ婆　そう怒るな、わしらあのことの前に、いいことするのかもしれない。きれいだべあの娘。お前の若い時、そっくりだ。

トメ婆　うそこけ！　べんちゃらふつてもだめだ。

ツゲ婆　うんにゃ、今はこんなときたない婆だけだよ、わしらにも若い時があつた。

トメ婆 ……

ツゲ婆 ほれ、お前の婚禮の時な、おらびっくりこいたわ、前の日まで、撰炭場でまっ黒になつて働いていたトメが、まっ白におしろい塗りたくつてよ、親方のおかみさんに、こう手ひかれてな。やっぱし女はばけもんだつて炭鉱長屋の評判だったぞ。らんぼう者の先山の作太郎のやつ……へへ……鼻の下長くして……おかしいのなんのつて、今でも覚えてるわ。

トメ婆 お前、作太郎にほれてたつていう、うわさだったな。

ツゲ婆 ……

トメ婆 おら知ってるぞ。

ソゲ婆 ……作はもう誰のものでもねえ。

トメ婆 あ？

ツゲ婆 ……なんもかんもすんだことだ。ジョーにかかつてるべ……石炭のうんとこ採れていた時の話だ。

トメ婆 ……作のやつも……

ツゲ婆 おらの亭主もだ……

トメ婆 キチの亭主も、ハル婆の息子も、みんなあのやまの下で骨になつてるべ。

ツゲ婆 ……

トメ婆 な、骨になつてるべ……骨でもいい、一度おら会いたいわ、作のやつに……